

平成29年度第2回広島市都市デザインアドバイザー会議 会議要旨

1 開催日時 平成29年(2017年)11月28日(火)9時30分～10時40分

2 開催場所 広島市役所本庁舎14階第7会議室

3 出席者

(1)出席委員(7名)

岡河 貢、伏見 清香、高田 由美、田中 貴宏、鰐澤 達夫、柏尾 浩一郎、
中城 秀典

(2)欠席委員

なし

4 議事

児童相談所及びこども療育センター建替えについて(2回目会議)

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴者 なし

7 会議資料

会議次第、委員名簿、広島市側出席者名簿、配席図

議事資料 児童相談所及びこども療育センター建替えについて(2回目会議)

8 議事要旨

第1回目会議での委員の意見等を踏まえて検討した設計案について説明を行い、設計内容の評価と改善事項の提案を受けた。今後の検討事項は次のとおりである。

(1)施設全体のデザインについて

①外装材料の組合せ、色彩、質感について検討する。

②病院やオフィスに見えないよう検討する。

(2)エントランス周りの設計について

エントランスを分かりやすくする工夫を行う。

こどもの施設であるため、家のエントランスを思わせるような(入っていきたくなる施設のような)デザインの検討や、エントランス周りの外構・植栽のデザインを工夫する等。

(3) 壁面木調ルーバーについて

ピッチや幅、位置などを工夫しリズム感が出るよう検討する。

(4) 緑化について

①屋上緑化の代わりに壁面緑化なども検討する。

②こどもが自然に親しめる造園等を検討する。

(5) 環境対策について

高反射率塗料の色彩は、周囲への影響を考慮して選定する。

(6) 北側（歴史の散歩道側）の設計について

閉鎖的な感じがするので、オープンなイメージを感じられるよう検討する。

【会議概要】

○金澤都市デザイン担当課長

開会挨拶、出席者紹介、配布資料確認及び議事説明

○岡河座長

本日の議事について説明をお願いします。

○橋本営繕課課長補佐

議事「児童相談所及びこども療育センター建替えについて」について、第1回目会議での委員の意見等を踏まえて検討した設計案を説明

○岡河座長

第1回目会議での各委員からの意見への対応を説明いただいた。これに対して、質疑等あるか。

○伏見委員

幾つか質問させていただきたい。

まず、基本方針（2）「さまざまな目的の来所者にわかりやすい施設づくり」の「わかりやすい」に対する説明がなかったが、この辺りをどのように考えているのか、具体例を教えていただきたい。

次に、北面パースを見ると、石垣と木のルーバー、そして外部フェンスの高さが異様に高い気がするが法的な規制があるのか。高さの設定について説明をしていただきたい。

また、木調ルーバーを2階、3階に設置しているが、2階よりも3階の木調ルーバーのほうが多いので、見た目のバランスが2階よりも3階のほうが重く感じられてしまう。光の加減なども考えて、開口部分の正面に必ず設置しなければならないものか考えていただきたい。

○久光営繕部長

「わかりやすい」については、いろいろな意味でのわかりやすさがあるが、特に外から来たときのエントランスのわかりやすさという点である。前回、メインエントランスの部分を「外のコリドール」と説明したが、そこに立って施設の顔が見えるということであり、具体的にはメインエントランスと南側の愛育園のエントランスがわかりやすく、かつ独立しているところである。

また、屋内空間においても、サインのわかりやすさなどを配慮している。

○橋本営繕課課長補佐

石垣の高さについては、現状地盤で計画しているため、全体的に少し高くなっている。現況の地盤の高さを変えると開発行為に当たるため、現状地盤のまま計画している。

○伏見委員

2 ページの右下に木調ルーバーのイメージがあるが、これも同じ地盤の高さか。

○設計業務受託者

全体として1階床レベルが道路より1メートルほど上がっており、施設と協議した結果、道路からの視線を制御するため、この高さになっている。

○伏見委員

高さは、具体的にどのくらいか。

○設計業務受託者

1メートル30センチから1メートル50センチくらいになる。

また、2階、3階の壁面のルーバーは、視線制御や西面では西日対策として、子供が利用する相談室や居室に設置している。廊下や職員が使用するところにはルーバーを設置しないで、リズム感が出るように計画している。

○伏見委員

2階よりも3階のほうがルーバーが多いので、重さのバランスがどうなのかとを感じる。

○岡河座長

物理的な重量ではなく、視覚的な重さのバランスということだと思う。

○柏尾委員

このルーバーには目隠しと西日の遮断という2つの目的があるということだが、窓とルーバーの位置関係がどうなっているのか。西日をどの程度遮ることができるのか、その辺りを具体的に聞かせていただきたい。

○設計業務受託者

具体的に西日の入射がどの程度か詳細な検証はしていないが、幅が大体80センチくらいの窓に対して、約1メートル幅で開口率が50%ほどのルーバーを設けている。また、室内のブラインドやカーテンでも直接的な日射を制御するように調整している。

北面についても、向かい側にマンション等があるため、お互いに見る、見られるという関係を少しでも和らげられるよう、ルーバーを設置して視線を制御している。

○柏尾委員

基本的には窓の正面に設置するということか。

○設計業務受託者

そうである。

○岡河座長

パースを見て、入り口がわかりにくいと感じた。

子供の施設であり、入り口は家みたいな感じだといいと思う。施設独特の威圧感がなく、どこか家を思わせるような、自ら入っていきたくなるような感じがあるといい。子供だからといってデザインをこびる必要はないが、何か検討の余地があると思う。

○鰐澤委員

入り口の階段とスロープがモノトーンで地味に感じるので、この部分に何かもう少し明るいものを検討してはどうか。もし子供が家に帰るようなイメージということであれば、ピーター・ウォーカーのランドスケープデザインなどを参考にするといいと思う。

建物全体としては、幾つかの素材を組み合わせられており、落ち着いていていいと思うが、少し地味な印象はある。

宮島焼きのベージュの陶器の色も1階だけに使われており、取って付けたみたいな感じがする。

○岡河座長

土壁風の色ということで。

○鰐澤委員

少し素材の要素が多いと思う。金属パネルとタイルの3種類くらいで十分かと感じている。金属パネルの下が入り口になるので、入り口の階段やスロープとの関係性を上手に出せれば、エントランスだということがわかりやすくなる気がする。

先ほど伏見先生が言われたルーバーについては、すごく重要なポイントだと思う。設計案のものは少し無機的というか、同じ幅で同じ厚みのため上が重く感じる。例えば、ルーバーを全て同じにせず幅を変えてみたり、2階と3階を突き抜けるものと突き抜けないものにするなど、何か一定の法則でリズム感を作り、バランスをとってもいいと思う。

あともう一つ、9ページの「クリエイティビティーでこどもたちが明るさを取り戻せるようなデザイン（場所）」という表現よりも、「こどもたちの創造性を刺激するクリエイティビティーあふれる空間とデザイン」という言葉のほうがよいと思う。

○岡河座長

木調ルーバーの素材は何なのか。

○設計業務受託者

アルミを樹脂の膜で巻いている。

○岡河座長

規則性が少し堅い感じがするので、その辺りを考慮して、位置の変更なども検討してほしい。

○高田委員

建物の外観については、私も少し堅い印象を持っている。二葉の里歴史の散歩道の落ち着きを意識して、この外観になっていると思うが、少しご検討いただきたい。

先ほど伏見先生が言われた外構のルーバーの高さについては、心理的にオープンな感じにならず、石垣の木も盛り上がっていて閉鎖的な感じがする。

少し残念に思ったのが、屋上庭園が無くなったことである。前回の説明では屋上庭園を造ると聞いたが、屋上全部に設備を置くことになったのか。街中にあるには、屋上の造り方もすごく大切だと思うので、その辺りについて聞かせていただきたい。

また、アルミパネルはどのようなものなのか聞かせていただきたい。

○営繕課 長谷川技師

屋上緑化については、前回のイメージ図で示したように、4階から6階で階段状の緑化を検討したが、室外機置き場をほとんど屋上に持っていくことになり、緑化が難しいということになった。

○設計業務受託者

園庭と光庭にはできるだけ植栽枡を設けて、子供たちが出入りするところには少しでも植栽を造る計画としている。

アルミパネルについては、正面のエントランス上部にある部分は3ミリほどの厚みのアルミの切り板パネル、渡り廊下部分の金属パネルはアルミスパンドレルという折り板状のパネルを採用している。

○岡河座長

金属パネルのアルミの光り方がどれくらいなのか、その点が重要な気がする。マットでグレー色の濃いものになると割と強烈になる。子供の施設なので少しシルバーがかっていても、軽い感じがしていいという気もする。その辺りのバランスの調整はできると聞いた

ことがある。金属の色調によって大きな印象の違いになると思う。また、吹付けタイルの色もそれによって大分違ってくるような気がする。

平板と折り板アルミの2種類と、それから吹付けタイル、これは一般的にコンクリートなどの外装に使うもので色がいろいろ自由に選べるので、この3つのバランスで建物の上のほうの印象が相当違う感じがする。できれば実物を見せて、アーティストや色彩の専門家に確認してもらって進めるとよいのではないか。

○田中委員

環境対策のニアリー・ネット・ゼロ・エネルギー・ビルの目標で、75%程度のエネルギー消費量削減は難しいということであったが、実際どれくらいの削減になるのか。

○営繕課 長谷川技師

まだ検討段階であり、何%削減とは出せない状況である。

○田中委員

75%は難しいにしてもいろいろと対策をされているので、その辺りをしっかりアピールされるといいと思う。

あと、ナイトパーズ（夜間換気）の外気の取り入れ口は、図面を見ると北側からということか。

○営繕課 長谷川技師

北側である。

○田中委員

高反射率塗料を検討しているが、これは屋上のことか。

○営繕課 長谷川技師

そうである。

○田中委員

白く塗って反射させると周りに影響があるので、そこに配慮していただきたい。

緑化の関係で、シュンランを植えて地域性を考慮しているところは非常にいいと思う。

屋上緑化が大分減ってしまうこともあって、その代わりに地上の緑化を行う方向だと思うが、そうすると、先ほど岡河先生が言われたような、エントランスあたりの演出という意味で、もう少しシンボルになるような緑化があってもいいと思う。

○岡河座長

エントランスのところに、緑のほかにオブジェがあってもいいと思う。くぐり抜けるよ

うな造形的なものなど、相当センスが要ると思うが、鰐澤先生にアドバイスしていただいて考えてみてもよいのではないかと。もし可能であれば、入り口のところが住宅の庭から家に入るみたいな感じがあってもよいと思う。組み合わせによっていろいろなことがイメージできると思うので、緑化を含めて検討していただきたい。なかなか難しいと思うが、子供にとっても、周辺の街並みや人にとっても、よい入り口というものをぜひ検討していただきたい。庭に置いてあるパーゴラみたいなエントランスで庭感があるのもいいかもしれない。

○中城委員

前回のイメージパースの屋上緑化がなくなったというのが非常に残念である。石垣と木と緑のバランスを考えた、明るい未来を創出するような開放的な施設にするという意見が前回あったかと思うが、オープンさが無くなって全体のイメージが少し閉鎖的な感じを受ける。

特に、北側のところが、前回のパースではすごくオープンなイメージで、植栽がリズムよく配置され、子供たちが遊びながら、回遊しながら帰ってくる感じであったが、石垣の高い塀やフェンスを造ったことにより動線が固定化してしまい一方向にしか行けなくなった。この部分は市民にもある程度開放されたプロムナードのような形で、自由に歩けるようなオープンな感じのほうが景観上も非常にいいのではないかと。北の石垣とフェンスのところは、プライバシー上のこともあるかもしれないが、何か再考の余地がある気がする。

屋上緑化ができなくなっても、壁面緑化ということも考えられるのではないかと。バルコニーのような突き出したところに植栽をして工夫するなど、公共施設は民間施設をリードする立場にあり、壁面緑化で手本になるようなものを検討していただきたい。緑と一体化したような建物にする提案があってもよいと思う。

また、光庭は閉鎖的な気もするので、ビオトープなど自然に親しめるような造園で、生物の多様性というような観点を取り入れた遊び場のような緑化があってもいいのではないかと。石垣と木と緑と明るい未来、開放的な施設というコンセプトからそう感じた。

8ページの金属パネルがオフィスや工場のように感じられて、先ほどの家庭的というイメージとは違うのではないかと。金属と金属の目地がシャープな感じでジョイントするのか、そのディテールがよくわからないが、家庭的な感じというには弱い気がする。

鉄筋コンクリートに金属パネルを張るということは、外断熱を想定されているのか。

○設計業務受託者

内断熱である。

○岡河座長

先ほどから意見が出ている金属パネルだが、これにはいろいろな色があり、費用はかかるが場合によってはプリントもできる。金属パネルの色や表面の仕上げについて、どのようなものがあるか少し研究して検討していただきたい。

最初の案より建物全体が少し保守的な印象になってしまった感じがする。新たに整備が進む広島駅北口の近くにある公共施設なので、何かこの施設独特の試みがあってもよいかもしれない。

○鰐澤委員

私がふとイメージしたのは、幕張にある日本IBMの建物の中の、画家の猪熊弦一郎さんの作品をプリントした壁である。真っ白い背景に色の着いた柄が描かれている壁なのだが、この作品のようにクリエイティブな柄などを使って色を着けて、明るさを表現してもいいと思う。

やはり、最初にも言ったが、素材の種類が多く、また、建物の形状からもオフィスビルが幾つかあるように見えてしまうので、色や柄などで統一感をもたせてもいいと思う。

○岡河座長

今はいろいろな材料があるので、幾つか検討していただきたい。最終的には全体のバランスだと思う。提案されている6つくらいの素材を減らすのはなかなか難しいと思うので、色のテーマというか、全体のテーマみたいなものがあればいいと思う。

○柏尾委員

全体の印象であるが、私もこの建物は病院やオフィスに見えてしまう。それは全てが直線基調ということに要因があると思う。

エントランスもわかりにくいので、例えばエントランスをわかりやすくするために、シンボリックな形状としてはどうか。金属の壁のところを上までラウンドさせるなど、そういったRの部分をシンボリックに入れてエントランスをわかりやすくする方法もあると思う。

また、木調のルーバーであるが、ルーバーという案は奥行き感を出すという意味でも有効だと思う。ただ、ルーバーを採用するとき、それが利用者にとって檻のように見えてしまったりはいけないので、ピッチやランダム感など注意が必要だと思う。

○岡河座長

ルーバーの上下の庇が全部直線で非常にシャープになっている。それはそれでよいかもしれないが、雨垂れで汚くなることもあり、もう少し検討の余地がある気がするので、ルーバーも含めて考えていただきたい。

○岡河座長

他に意見はないか。

それでは、本日予定していた議事は以上である。議事進行を事務局に返す。